

## 第2章 市民の森の現状と課題

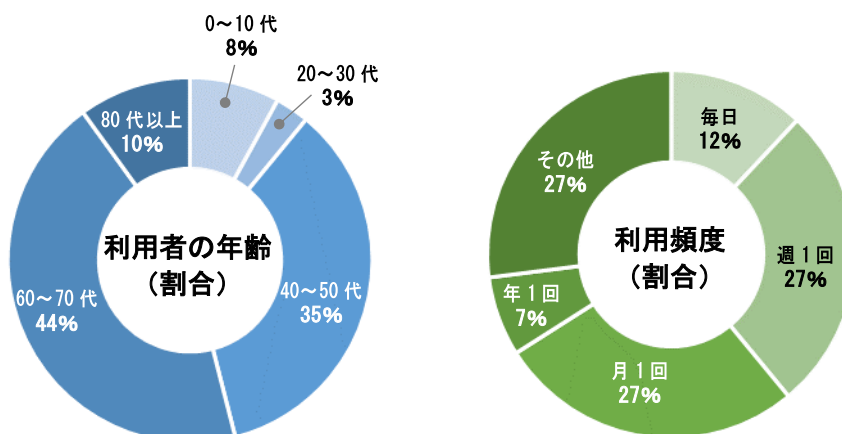
### 1. 市民の森を取り巻く環境、利用状況

#### (1) 環境

市民の森の西側を春の森、東側を秋の森と2つの区域に分け、春の森には梅や桜などを秋の森にはヤマモミジやクヌギなどを植栽しており、その季節に応じて春には梅や桜の花を愛で、秋には紅葉やどんぐり拾いを楽しむなど、年間を通じて草木の息吹、野鳥の声を感ずることができ、維持向上すべき歴史的風致にとって重要な景観形成の場となっています。また、市民の森は四王寺山の里山景観を構成するとともに史跡観世音寺および子院跡として歴史的な景観形成にも重要な場所であり、文化財保護法を遵守しつつ、里山景観をいかにして保全していくのかが問われる場所でもあります。

#### (2) 利用状況

以下のように幅広い目的で全世代の皆様のご憩いの場として、年間を通じて多くの方々が利用しています。



※「令和4年度 四王寺山（市民の森）環境整備に関するアンケート」調査結果を基に作成

#### 【利用者の主な活動内容】

- ・ 近隣住民をはじめ、散歩に来られる方の健康増進の場
- ・ 四王寺山（九州自然歩道）登山者の玄関口
- ・ 自然とのふれあい等子どもたちへの森林環境教育等を行う団体の活動拠点
- ・ 季節ごとの花や生き物観察の場
- ・ ウォーキングイベントのコース